朝日歌壇　俳壇

〈日曜日のブローチ　35〉　junaida

永田和宏選

幾人の掌に触られしや胸像の茂吉の頭木漏れ日に照る　（君津市）内川　英夫

鋲にてはづさるる手のバーコードこれにて東病棟を去る　（松山市）佐藤　昭子

震災に挽げたる腕を足許に冬の桜を睨める仁王　（羽咋市）北野みや子

坂道にテラスのありて日の溜り時間の溜り木の実の溜り　（長野県）千葉　俊彦

どんぐりをたくさん拾った来年の十日えびすでしかにあげるんだ　（春日井市）吉田　朱花

☆処分されし母熊の胃は空っぽで熊と人との攻防悲し　（横浜市）米長百合子

三日月も澄んだ空気も独り占め冬を引き連れ早番勤務　（富山市）松田　わこ

怒るまえ眼鏡の左を押し上げて私は夫を見据えるらしい　（名古屋市）山守　美紀

鼻眼鏡の親父ちんまり坐りゐる街の古書肆を文化といふなり　（浜松市）久野　茂樹

前足で毛布をちょんと触るのは「ちょっと入れて」の合図となりぬ　（大阪市）清　富佐子

【評】内川さん、上山の茂吉記念館。あの像、なぜか頭を撫でたくなってしまう。佐藤さん、退院だろうか。「鋲にて」という些細な具体に現場のリアルが感じられる。十首目、清さん、子猫だろうか。わが家の猫は一緒に寝てくれない。羨ましい。

川野里子選

横に娘も見守っているきょう黄泉へ行く妻にキスしたいのに　（川崎市）箕輪京四郎

昏睡に陥る母の本心を知るためならば蟻にでもなる　（厚木市）本庄　伸子

窓際に置きし亡き娘の姫鏡台つがいのインコの恋も映せり　（市川市）山崎　聲子

県による撤去の後に残されたものすごい枚数の花びら　（横浜市）富尾　大地

今までどこにいたのってよく聞かれるが皇帝ダリアもそんな感じだ　（東京都）伊東　澄子

窓の外燕が来たよと指させば父の目が問う「母さんが来た？」　（佐世保市）近藤　福代

県道のカーブで突如リスの死が横たわっている　前歯のぞかせ　（大館市）柴田　陽子

東京はほっといてやる方がいいヤツも多いよ。だよな、将門　（さいたま市）山口　晋裕

「大丈夫！」と歌う着ぐるみペンギンも時に支えてくれて還暦　（生駒市）吉川　逸子

スーパーでまじまじわたしをみる赤ちゃんついにわらった面接合格　（大阪市）藤田ふみえ

【評】一首目、真心と羞恥心のせめぎあいが切ない。二首目、母の心に忍び入りたいと切望する。三首目、生きていたら恋もしたはず。七首目、死とは何かがよく見られている。八首目、東京人も平将門ほど怖くはないが、デフォルメが可笑しい。

佐佐木幸綱選

指浸けて金魚につつかす人の居て市庁舎ロビーは網蓋あまた　（大和郡山市）四方　護

入浴はいやだと言って動かない父を裸にして拭きあげる　（佐世保市）近藤　福代

冬用のタイヤに四台を交換す息子は真白き月山を背に　（東根市）庄司　天明

五十年楷書の歌をありがとう高橋真梨子はわれの歌姫　（新潟市）大滝　慶作

「申し訳ない」と涙を流す人大火のなかに自宅残りて　（観音寺市）篠原　俊則

土産買いすぎた人いて冷蔵庫上段白い恋人だらけ　（大阪市）竹内　秀興

一ダース鉛筆削ればテーブルに木の香の残る小雪の朝　（中津市）瀬口　美子

地区のゴミ拾い終え餅トン汁を貰って食べる神社境内　（厚木市）石井　修

仕切り線に両手をついてしっかりと低く立ち合う安青錦関　（栃木県）川崎　利夫

誤字ひとつ見つけて思うこの人はＡＩでなくて自分で書いた　（京都市）清水　希

【評】第一首、大和郡山市の市庁舎を思い浮かべた。金魚が飼われている水槽に指を浸ける人が多いらしい。第二首、小さい息子を風呂に入れるような表現が楽しい。第三首、一人で自動車四台ものタイヤ交換をする息子さんをクローズアップ。

高野公彦選

セルフレジは物から物を買ふ仕組み人から物を買ひたいわたし　（東京都）上田　国博

浮ついた都会の明かりともすため地方原発再開なんて　（つくば市）石上徳千代

大リーグ終われば明るいニュース消え熊と政治に胸塞ぐ日々　（五所川原市）戸沢大二郎

☆処分されし母熊の胃は空っぽで熊と人との攻防悲し　（横浜市）米長百合子

歩行器を自在に操り百歳の姑は施設にのびのび生きる　（橋本市）秋月　晶江

秋空と銀杏の競演見もせずに小さきスマホをのぞく若者　（観音寺市）篠原　俊則

健康のためとか仲間作りとか理由はいらぬ合唱楽し　（さいたま市）萩谷　則子

優勝を夢見て海を渡り来し安青錦関は君が代浴びる　（安中市）鬼形　輝雄

永遠に残るといいな短歌や俳句知らない人の心覗けて　（栃木市）田村　友子

教室にカメムシ出たとき手でそっと外に逃がしてくれる子がいる　（奈良市）山添　葵

【評】1首目、同感ですという人が多いだろう。2首目、柏崎刈羽原発の再稼働に異論あり、という歌。3首目、大谷選手らは良かったが、熊や高市総理にはヘキエキだ、と。10首目、苦手なカメムシをそっと逃がしてくれる子がいる嬉しさ。

うたをよむ　移民の歌

千種　創一

最も古い移民の歌は、この歌であろう。

天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも　阿倍仲麻呂

仲麻呂は唐へ渡り、官僚として活躍した。時代は下り、大正期にブラジルへ渡った歌人の、同じく望郷を主題にした、

ふるさとの信濃の国の山川は心にしみて永久に思はむ　岩波菊治

との歌もある。明治以降、多くの日本人が海外へ移住して、多くの歌を詠んできている。移民を考えるとき、職や知識を求めた日本人たちを受け入れてきてくれた諸国の人々のことを忘れたくない。

令和に入り、海外からの移民を詠む歌も増えたように感じる。

ベトナム人実習生の鼻歌はひびくカメラの外の世界で　霧島あきら

霧島の歌は、短歌研究新人賞の連作の一首だが、同連作の主題は移民ではなく職場詠だ。日常の風景として移民が登場する。今後、移民を詠む歌は増えるだろうが、一方的な眼差しで詠むのではなく、相手の文化も理解した上で詠みたい。創作が誰かを傷つけることのないように。

今夏名古屋で開催された短歌大会「短歌部@なごや」で、こんな歌が入賞した。

かなしいとかわぎしいってかわのひとはなしましょうしあわせになる　ダン　ティ　ニュン

川岸に行くと会える人を「かわのひと」と呼ぶ不思議さ。氏名からしてベトナムに出自を持つ方だろうか。僕も選考委員を務めたが、無記名選考で、純粋に歌自体が評価された。今後、日本語を母語としない人々の歌も増えるだろう。それはきっと短歌の世界を豊かにする。（歌人）

風信

奥田亡羊全歌集「ぼろんじ」　著者が4月に亡くなる直前までの作品を収めた第4歌集「虚国」と、「亡羊」「男歌男」「花」を収録した全歌集。（書肆侃侃房・2310円）

永井祐訳・正岡子規著「歌よみに与ふる書」　「伝説の書」を1981年生まれの歌人が現代語に訳し、解説した。読者からの質問に対する子規の解答や原文も収録。（左右社・2420円）

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は**無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号**を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます（週に2作品まで）。QRコードから。